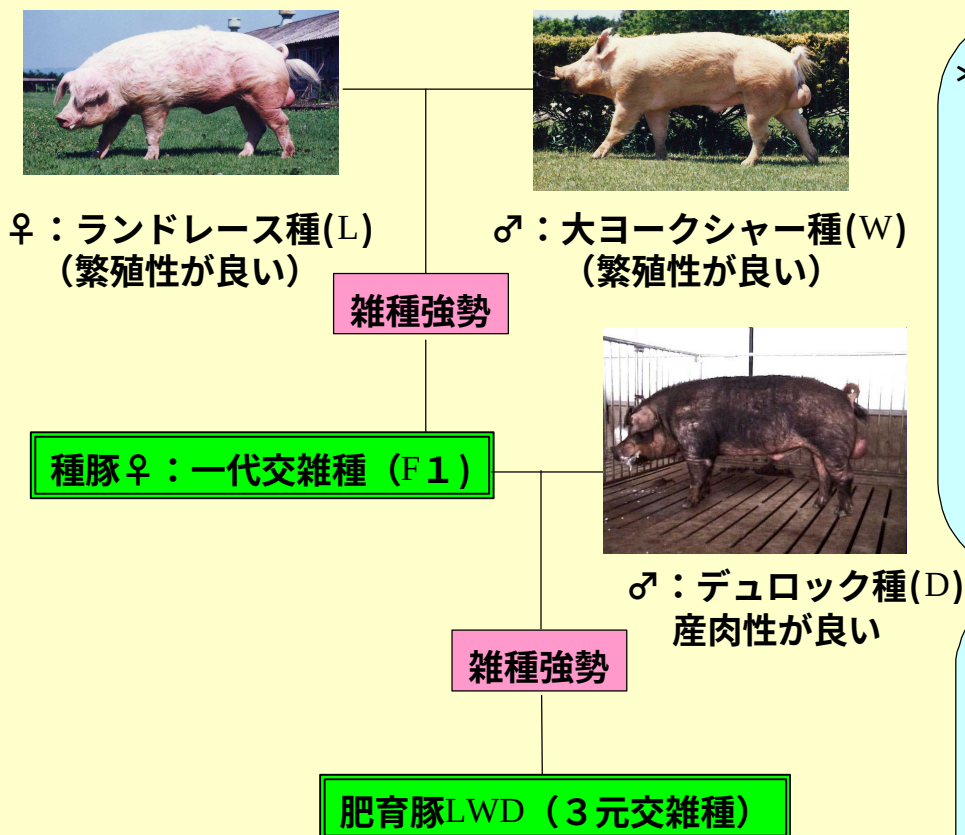


III 豚

1 豚の生産の現状

我が国の肉豚生産は、3品種を交配した3元交雑豚が多い。



＊「雑種強勢」とは、2つの異なった品種の間で交雑した場合、その一代雑種の能力が両親の平均と比べて優るという現象であり、農作物や畜産(豚や鶏)において広く利用されている。我が国においては、繁殖性の高い品種(L, W)同士の交雑により、より繁殖能力の高い母豚を作成し、これに産肉性の高い品種(D)を交配することで、より多くの発育の早い肥育豚の生産が行われている。

鹿児島に多い「黒豚」は、生産性は劣るものの、肉質の良い「バークシャー種」純粋種による肉豚生産が行われている。



バークシャー種

多様な消費者ニーズに対応した低コストな豚肉を生産するため、様々な取組が行われている。

生産性の向上

オールインオールアウトによる事故率の低減
未利用資源を活用したリキッドフィーディング技術等の活用



(リキッドフィーディング)

安全 安心の確保

生産履歴公表JAS豚肉の生産
薬の使用を抑えたSPF豚の生産



(SPF豚の生産)

高品質な豚肉の生産

肉質に特徴のある種豚の生産
特殊飼料を利用した飼養管理



(トウキョウX)

2 これまでの改良の取組と成果

(1) 豚をめぐる情勢と改良の取組

規模拡大の進展と豚改良の推進、飼養管理技術の発達によって、我が国養豚は着実に発展。

	肉豚出荷 日齢 (日)	肉豚出荷 体重 (kg)	1戸当たり 飼養頭数 (頭／戸)	豚改良	飼養管理技術等
昭和30年				・産肉能力検定の開始	・大型品種 (L、W、D等) の導入
35年	237.1	88.3	2.4	・改良増殖目標の策定	
40年	228.0	84.7	5.7	・直接検定の普及	・配合飼料の利用
45年	218.9	92.8	14.3		・豚コレラワクチンの開発
					・スノコ式豚舎の普及
50年	215.8	99.9	34.4	・凍結精液の実用化	・一貫経営が主流に
55年	209.8	104.8	70.8		
60年	209.8	106.6	129.0	・現場検定の普及 ・系統豚造成の進展	・SPF豚の普及 ・ハイブリッド豚の進出
平成元年	209.8	107.0	236.4	・遺伝的能力評価の開始	・リキッドフィーディングの開始
5年	200.6	108.1	426.2		・人工授精技術利用の普及
10年	200.6	109.2	739.1		・SEWの普及
15年	197.6	110.7	1,031.0		

資料：「畜産物生産費」「畜産統計」

注：SEWとは、分離早期離乳法の略称。子豚の移行抗体が消失する前に離乳させ、母豚からの感染を防止するとともに、その後 オールインオールアウトを徹底する等の方法で健康な肉豚を低コストで生産する方法。

規模拡大にあわせた
飼養管理技術の発達



(スノコ式豚舎)



(超音波妊娠診断器)



(人工授精用精液の採取)

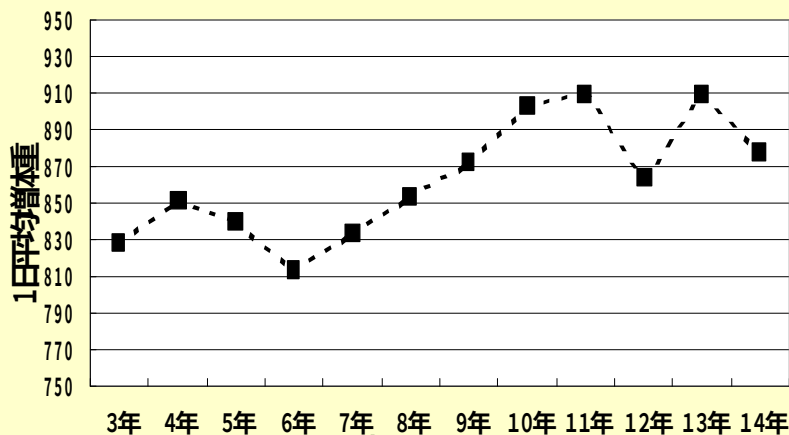
我が国の改良は、公的機関による系統造成と民間による開放型育種を中心に進展。

注：系統造成とは、素材とした個体群を対象に選抜と交配を繰り返すことにより遺伝的に優良で斉一な集団 (系統) を作出する改良手法。

(2) 改良の成果と課題

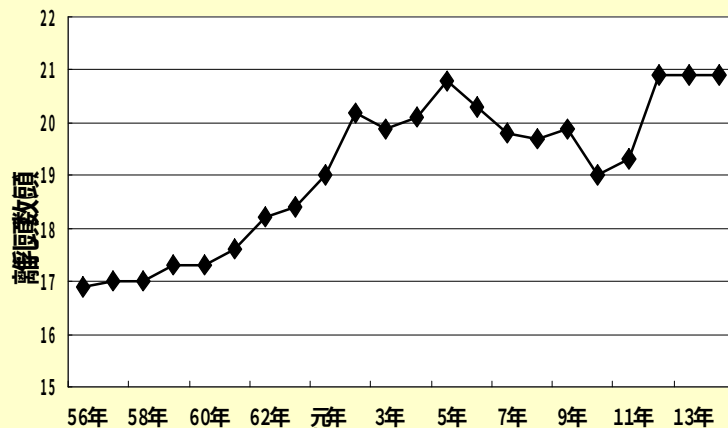
- 種豚の改良による産肉・繁殖能力の向上等を通じた生産性の向上は、我が国養豚経営の体質強化等に寄与。

1日平均増量(デュロック種)



主に雄系で利用されるデュロックにおいて、産肉能力が向上

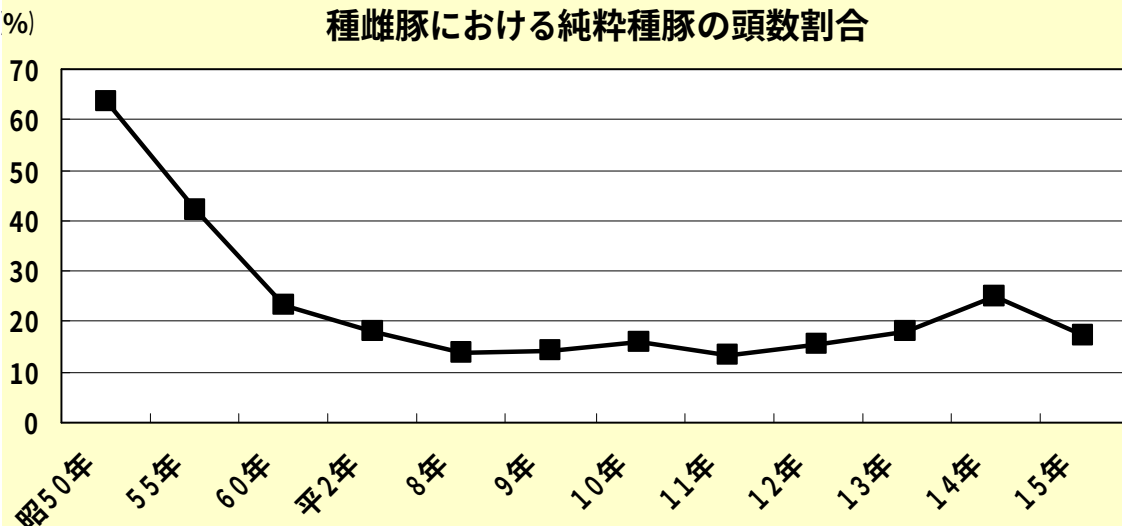
肥育用と豚生産用母豚年間産仔頭数(3週齢時)



肥育もと豚を生産するための母豚において、繁殖能力が向上

産肉・繁殖能力ともに向上傾向で推移。しかし、近年はその伸びが鈍化。

種雌豚における純粋種豚の頭数割合



多様な消費・流通ニーズに対応した、肥育豚生産の基となる純粋種豚の数が減少

- 品質の向上とともに、低コスト生産を図るため、改良の推進によるさらなる能力の向上が重要。
- 育種素材として特長のある形質を持った純粋種豚を維持・確保する必要。

2 新たな目標のポイント

(1) 改良目標

○純粋種の改良

各品種毎の特長に応じた能力の向上

純粋種豚の能力に関する目標数値(全国平均)

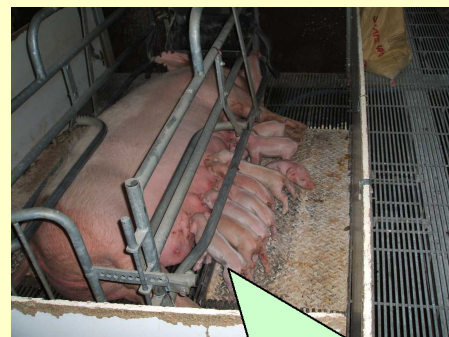
	品 種	繁殖能力		産 肉 能 力			
		育 成 頭 数 (頭)	子 豚 総 体 重 (kg)	1日平均増体量 (g)	飼 料 要求率	ロース芯の太さ (cm ²)	背脂肪層の厚さ (cm)
現 在	バークシャー	8.5	49	720	3.4	30	2.2
	ランドレース	9.8	58	900	3.0	37	1.6
	大ヨークシャー	9.8	57	900	3.1	38	1.6
	デュロック	8.6	48	880	3.1	39	1.8
27 年 度	バークシャー	8.9	52	750	3.3	34	2.2
	ランドレース	10.5	63	900	3.0	37	1.6
	大ヨークシャー	10.6	63	910	3.0	38	1.6
	デュロック	9.4	53	910	3.0	41	1.8

○肥育もと豚生産用母豚の改良

肉質改良にも留意

肥育もと豚生産用母豚の能力に関する目標数値(全国平均)

	1腹当たり 生産頭数 (頭)	育成率 (%)	年間分娩 回数 (回)	1腹当たり 年間離乳頭数 (頭)
現 在	10.3	92	2.2	20.8
27年度	10.8	94	2.3	23.3

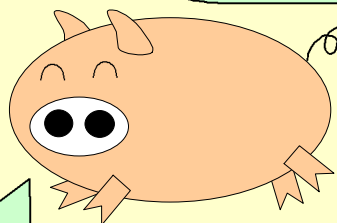


連産性等繁殖能力の優れた母豚の生産を推進

○肥育豚の改良

肥育豚の能力に関する目標数値(全国平均)

	出荷日齢 (日)	出荷体重 (kg)	飼 料 要求率
現 在	200	110	3.0
27年度	183	113	2.9



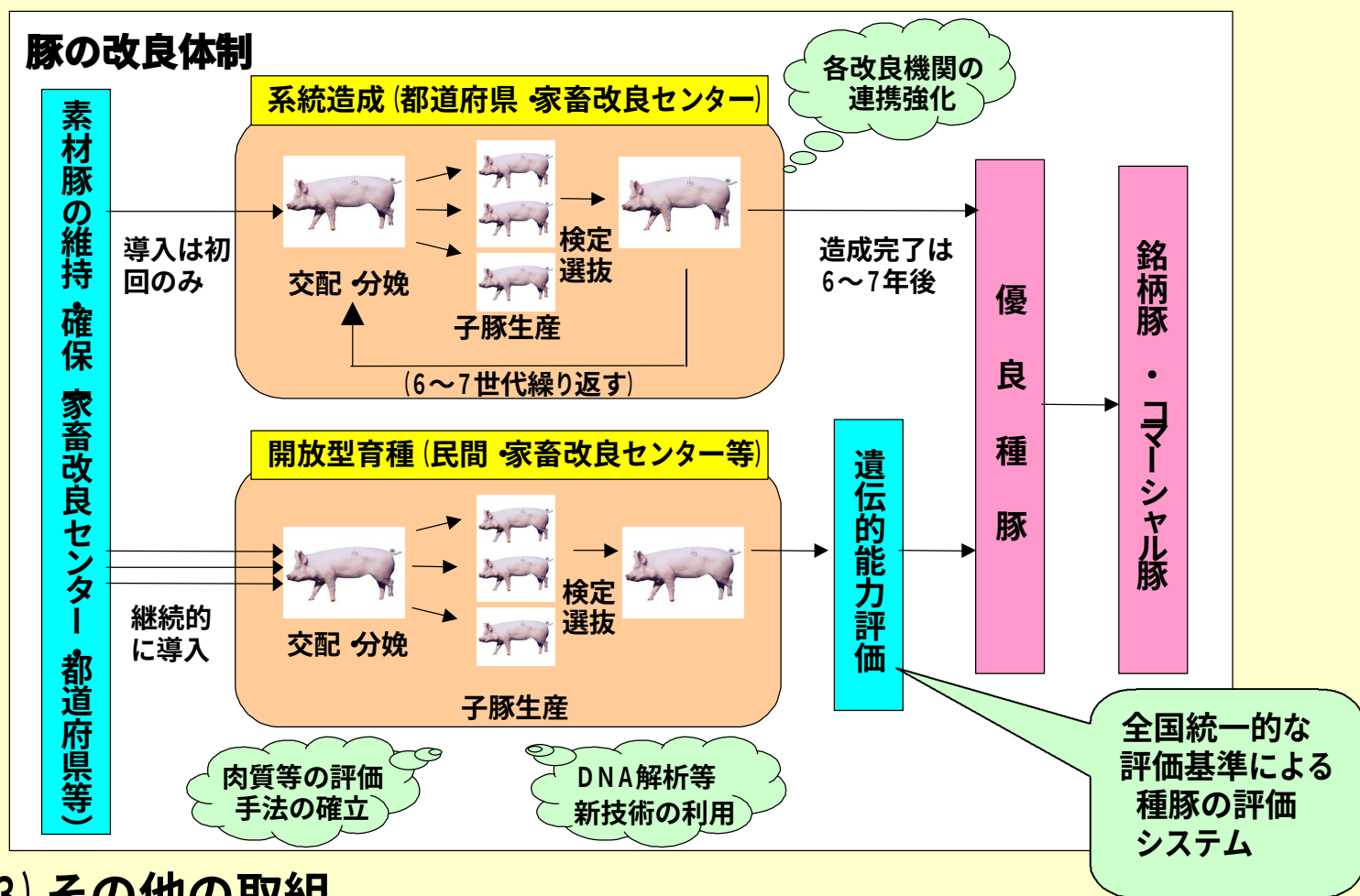
良質で斉一性の高い豚肉の生産

適正な日齢及び体重での出荷

・体型については、強健性の向上による供用年数の延長を推進。

(2) 改良手法

- 能力検定の実施と遺伝的能力評価に基づく種豚の選抜及び利用
- 育種素材として多様な特性を有する純粋種豚の維持・確保及び安定供給体制の整備
- 関連機関の連携による、系統及び優良種豚群の造成とともに、適正な交雑利用の推進
- 肉質改良や肢蹄の強健性向上のための実用的な評価法の確立・普及及び人工授精等の新技術の利用



(3) その他の取組

- 適切な飼養・衛生管理の徹底による改良の推進及び生産性の向上
- 食品残さ等未利用資源の飼料化のための低コスト技術の開発やその普及・定着

(4) 増殖目標

	総頭数
現在(15年度)	972万頭
目標(27年度)	934万頭

増殖目標達成に向けて

- 繁殖能力等の向上による生産性の向上
- 肉質等特長のある豚肉生産による輸入豚肉との差別化